

幼 兒 教 育

第 三 十 二 卷 ・ 第 一 號

一 點 の 嚴 肅 味

子どもは遊ぶ。われ等は子どもと共に遊ぶ。しかし、おとなの遊びに子どもを使つてはならない。

子どもは自由だ。われ等は子どもに自由を與へてやり度い。しかし、子どもに如何なる生活をさせるかには、おのづから限度がある。みたるべからざる規がある。子どもは自由だが、子どもの相手をするものには、守るべきところがなくてはならぬ。

子どもの相手に消極は禁物だ。神經質の苦勞性のあふなりでは、思ひ切つた子どもの相手は出来るものではない。全般的態度として、積極と、大膽と、或る長閑さとは、子どもを大きく育てる上に極めて必要のことだ。しかし、積極と冒險と、大膽と粗漫と、長閑さと呑氣とは、似て而して違ふ。子どもの相手といふ、大にして微、微にして大なることに於て、殊に、似て而して甚だ違ふ。子どもの相手に缺くことの出来ないものは、積極、大膽、長閑さと共に、細心と、深慮と、慎重とだ。

子どもの相手は楽しいことだ。愉快なことだ。しかし、氣樂なことではない。況して、浮かしくしたことではない。子どもといつしよに笑ひながら、ふざけながら、おとけながらも、自分自ら、戒め慎みてみだるところのない一點の嚴肅味、そのないものには子どもは托せられない。(倉橋生)